

令和2年度 学校運営等に関する評価書

学校名	和歌山市立福島小学校
作成日	令和3年3月10日

1 教育目標

徳育・体育・知育の調和がとれ、豊かな感性と正しくたくましく生きぬく力をもった子どもを育てる。

2 学校自己評価についてのご意見

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・県学習到達度調査で基本問題の正答数が県平均を上回る。 ・学校評価アンケート「わたしは毎日の勉強がわかる」で「とても思う(よくわかる)」(児童90%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしは学校が楽しい」で「とても思う(とても楽しい)」が(児童90%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「今、休憩時間は外で元気に遊んでいる」で「あてはまる」(児童90%) ・「生活リズムチェック」で「朝ごはんを食べた」(児童100%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、学校の教育目標や子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えている」で「とても思う」「どちらかといえばそう思う」併せて(保護者90%) ・地域の人材や資源を活用した取組を行った。(教員100%)
意見重点目標に対する	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動、読書活動推進はできている。 ・ノートが取れていない子や問題が理解できていない子を見かける。もう一人先生がいればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめはいけないという認識ができていない。 ・異年齢集団で育てることは好ましい。6年生が最高学年として自覚をもって生活し、全校が仲良く活動できていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩時間に一生懸命遊んでいる子どもが多い。 ・体育の授業で、自分の意志で考えて行動できている。子どもたちが生き生きしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、コロナ禍でほとんど地域との交流ができなかったのが残念だった。
意見取組状況に対する	<ul style="list-style-type: none"> ・県到達度調査の結果から基礎学力の定着が必要と感じた。 ・自主学習させる体制が整ってきた。 ・図書室、うちどくコーナーの整備が進んでいて良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動範囲が広がるにつれ、より一層、危険回避能力を育てる必要がある。 ・コロナ禍にあっても、みんな仲良く楽しい学校生活を送れているようで安心した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策をしながらの福島全力オリンピックの取り組みは非常に良かった。 ・スマホ等の啓発が望まれる。 ・週末に各学級で「福島のきまり」を再確認して下校する取り組みはとても良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学級だより等で学校の情報がよくわかる。 ・小中連携が必要だ。
に取組に対する適切な意見の検証結果	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力向上のため日々の復習が必要。宿題の質を高める取り組みが大切。 ・題意を理解させることにも力を入れたい。身近な物事を例にすると身につけやすいと思う。 ・算数の学習意欲を高めるための工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍によるマスク着用で挨拶が聞き取りにくくなっているが、きちんとできている。 ・学校外の様子から成果が見える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の見守りの際、空腹や寝不足を訴える子供がいる。特に休み明けに多い。 ・校内での外遊びはできていると思う。朝の運動なども取り入れてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から離れた新興住宅地の安全体制を整えていく必要がある。
改次年度方法に向けての意見	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の終日開放に取り組んではどうか。 ・作文やレポートを書く学習に取り組ませたい。深く読むことも体験させたい。 ・学校独自の俳句コンテストや計算コンテスト、算数検定など目に見えて達成感を感じられる取り組みをしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り活動は継続すべきである。 ・更に異年齢での取り組みを進める。 ・声に出さなくても会釈でもいいと指導すれば「気持ちのあいさつ」のポイントが上がると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週末に各学級で「福島のきまり」を再確認して下校する取り組みを続けたい。 ・自粛生活でゲーム漬け、SNS依存にならないよう、スマホの所有率や使用頻度、目的、家庭でのルール作りに関する調査や保護者の啓発、危機意識の向上が必要だ。 ・来年度は交通安全教室を実施したい。特に自転車の乗り方についての指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全を見直す必要がある。 ・中1ギャップによる新しい不登校を作らないためにも、中学校入学前に授業体験や部活見学などの連携協力が必要である。 ・地域と一体になって、感染対策を講じた避難訓練が必要である。

3 その他のご意見

・今年度はコロナ禍で地域との交流がほとんどできなかった。学校内での子どもたちの姿を見る機会が少なく寂しかった。来年度は子どもセンターなどで、地域の皆さんと交流できたらいい。

・放課後の生活、遊びのマナー(狭い路地でのボール遊びやコンビニ、スーパーでの買い物等)が気になる。遊びのルール、買い物のルールの再確認が必要。

・学校の周りの住民として今後も協力していきたい。

・困難を乗り越え生き抜く力、どのような状況下でも自己コントロールできる力を持った子どもの育成に努めてほしい。